

様式第4のホ（第4条、第5条関係）

地下タンク貯蔵所構造設備明細書

事業の概要		(1)			
タンクの設置方法		(2) タンク室 ・ 直埋設 ・ 漏れ防止			
(3)	タンクの種類	鋼製タンク・強化プラスチック製二重殻タンク・鋼製二重殻タンク・鋼製強化プラスチック製二重殻タンク			
	形状	(4)	常圧・加圧 (5) (kPa)		
	寸法	(6)	容量	(7)	
	材質、板厚	(8)			
	外面の保護	(9)			
	危険物の漏れ検知設備又は漏れ防止構造の概要	(10)			
	(11) 通気管	種別	数	内径又は作動圧	
				mm kPa	
	(12) 安全装置	種別	数	作動圧	
				kPa	
	可燃性蒸気回収設備	有 ((13)) ・ 無			
	液量表示装置	(14)	引火防止装置	(15) 有 ・ 無	
タンク室又はタンク室以外の基礎、固定方法の概要	(16)				
注入口の位置	(17)	注入口付近の接地電極	(18) 有 ・ 無		
ポンプ設備の概要	(19)				
配管	(20)				
電気設備	(21)				
消火設備	(22)				
工事請負者住所氏名	(23)		電話		

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
- 2 「直埋設」とは、二重殻タンクをタンク室以外の場所に設置する方法（地下貯蔵タンクを危険物の漏れを防止することができる構造により地盤面下に設置する方法を除く。）をいう。
- 3 「鋼製強化プラスチック製二重殻タンク」とは、令第13条第2項第2号イに掲げる材料で造った地下貯蔵タンクに同項第1号ロに掲げる措置を講じたものをいう。

【記入要領】

項目	記入要領
記入方法	<p>ア 各欄の該当しない部分は、「／」、「－」、「なし」等を記入し、該当する部分がないことを明確にします。</p> <p>イ 製造所または一般取扱所の 20 号タンクの場合は、(2) から (18) を上記に従い記入し、その他の欄は斜線を記入します。</p>
(1) 事業の概要	<p>貯蔵所が設置されている事業所の事業内容・貯蔵目的等を記入します。</p> <p>(例)</p> <p>油槽所 (石油製品の貯蔵)</p> <p>石油化学製品の開発・製造 (石油原料の貯蔵)</p> <p>ホテル (給湯、暖房用ボイラー用燃料の貯蔵)</p>
(2) タンクの設置方法	<p>該当する埋設方法のいずれかを○で囲みます。</p>
(3) タンクの種類	<p>貯蔵タンクの種類を○で囲みます。</p>
(4) 形状	<p>縦置円筒型・横置円筒型・角型・楕円型等を記入します。</p>
(5) 常圧・加圧	<p>常圧・加圧は、タンクの貯蔵方法を○で囲み、加圧の場合は圧力を記入します。</p> <p>なお、常圧とは、正圧または負圧で 5 キロパスカルを超えないものをいいます。</p>
(6) 寸法	<p>寸法は、次の項目を記入します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 横置円筒型は、内径・胴長・鏡出・全長 ・ 角型は、縦・横・高さ ・ 楕円型は、長さ・幅・高さ
(7) 容量	<p>危険物の規制に関する政令第 5 条第 2 項に規定するタンクの容量を記入します。</p> <p>中仕切タンクは、各室の容量を () 内に記入します。</p> <p>例 20,000 : 80,000</p> <p>なお、製造所または一般取扱所に設ける 20 号タンクで、危険物の規制に関する政令第 5 条第 3 項に規定する一定量を超えることがないタンクは、一定量を記入します。</p>
(8) 材質・板厚	<p>材質・板厚は、タンクのそれぞれの部分の材質・板厚を記入します。</p> <p>材質の代わりに JIS 規格番号または材料記号を記入することもできます。</p> <p>なお、中仕切タンクの場合は、中仕切り板○○mmと記入します。</p>
(9) 外面の保護	<p>危険物の規制に関する規則第 23 条の 2 に規定する地下貯蔵タンクの外面の保護措置の概要を記入します。</p> <p>電気防食または FRP 内面ライニングを実施する場合は、その旨を記入します。</p> <p>なお、危険物保安技術協会試験確認等を受けている場合は、() 内に「危険物保安技術協会試験確認済」等と記入します。</p>
(10) 危険物の漏れ検知設備又は漏れ防止構造の概要	<p>危険物の規制に関する政令第 13 条第 1 項第 13 号に規定する設備または危険物の規制に関する規則第 24 条の 2 の 5 に規定する構造のうち、地下貯蔵タンクが該当するものの概要を記入します。</p> <p>なお、危険物保安技術協会の試験確認を受けている SF タンク用漏洩検知設備の場合は、() 内に「危険物保安技術協会試験確認済」と記入します。</p> <p>また、全国危険物安全協会の性能評価を受けた常時監視装置の場合は、「高精度液面計 (全国危険物安全協会性能評価済)」等と記入します。</p>
(11) 通気管	<p>タンクに設置される通気管の種別・設置数・内径または作動圧を記入します。</p>
(12) 安全装置	<p>タンクが圧力タンクの場合に安全装置の種別・設置数・内径または作動圧を記入します。</p>
(13) 可燃性蒸気回収設備	<p>有・無のいずれかを○で囲み、有の場合は、() 内にその設備の概要を記入します。</p>
(14) 液量表示装置	<p>タンクに設置される液面計の型式等を記入します。</p>
(15) 引火防止装置	<p>有・無のいずれかを○で囲みます。</p>

<p>タンク室又はタンク (16) 室以外の基礎、固定方法の概要</p>	<p>次により記入します。 ア 直埋設の場合は、基礎の構造、仕上げ方法とタンクの基礎への固定方法の概要を記入します。 イ タンク室の場合は、タンク室のふた、壁、底の構造と内部仕上げ方法等の概要を記入します。</p>
<p>(17) 注入口の位置</p>	<p>注入口の位置は、タンクに移動タンク貯蔵所等から受け入れる口がある場合に注入口の設置場所を記入します。 遠方注入口の場合は、遠方注入口である旨を併せて記入します。 なお、製造所から配管により受け入れる場合等は、「なし」またはその旨記入します。 (例) 防油堤内南西側 ○○棟（製造所）から配管で注入</p>
<p>(18) 注入口付近の接地電極</p>	<p>有・無のいずれかを○で囲みます。</p>
<p>(19) ポンプ設備の概要</p>	<p>タンクに受け払いを行っているポンプの種類・原動機の種類等・設置数・防爆構造の種別・記号を記入します。</p>
<p>(20) 配管</p>	<p>製造所等で使用するすべての配管の材質・外面保護等を記入します。 上記の代わりにJIS規格番号または材料記号を記入することもできます。</p>
<p>(21) 電気設備</p>	<p>危険物の規制に関する政令第9条第1項第17号が適用されることにより、電気設備に関する技術上の基準を定める省令に基づき設置される電気設備の種類や防爆構造の種別・記号・個数を記入してください。 ただし、電気設備が多岐にわたる場合等は、総合的に捉えて、「電気工作物に係る法令のとおり設置する。」と記入することもできます。</p>
<p>(22) 消火設備</p>	<p>貯蔵所等に設置される消火設備について、危険物の規制に関する政令別表第5に規定する区分・設備名・設置数等を記入します。</p>
<p>(23) 工事請負者住所氏名</p>	<p>工事請負者の住所・氏名・連絡先の電話番号を記入します。 法人は、主たる事業所の所在地・法人名・担当者名・連絡先の電話番号を記入します。</p>